

「新之助」生育速報 No. 2

令和 8 年 7 月 10 日
村上農業普及指導センター

1 生育調査ほにおける生育状況（7月8日現在）

生育等の概況

草丈：並 茎数：並～やや多 葉数：並 葉色：薄い

- 葉色が急落しているほ場が散見される。
- 出穂期は、平年より2日程度早い(8/12頃)見込み（7月10日現在）。
- 7月に入り、管内で葉いもちの発生が確認されている。

調査場所	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
村上市岩沢（朝日）	5/24	49	565	10.6	30.7
村上市牛屋（神林）	5/15	45	655	11.7	33.3
指標値（7月10日）	5月中旬	47	580	11.9	35.0

2 今後の技術対策

（1）葉色が急落しているほ場の対応について

- ・1回目の穂肥時期まで期間があることから以下の対応を実施する。
- ・中干しを実施中の場合→入水を再開し、葉色回復の様子を見る。
- ・水管理は適正に実施しているが、葉色値が急落、幼穂形成期頃の葉色値 34 の確保が困難な場合→窒素成分で 0.5～1.0kg/10a の範囲で追肥し、葉色の低下を抑制させる。

（2）水管理

- ・中干しの終了目安は、小ひびが入る程度とする。終了後は間断かん水とし、幼穂形成期以降は飽水管理を徹底する。特に減数分裂期（出穂期 12 日前頃）から出穂・開花期にかけて最も水が必要となるので、水不足にならないようにする。
 - ・異常高温、強風、フェーン時には速やかに湛水し、稲体の急激な蒸散防止に努める。
- ※地域の水利事情を踏まえて、かけ流しを避け、適切な水管理を心がける。

（3）穂肥施用

- ・穂肥は、出穂前 21 日～18 日（1回目：幼穂長 5～10mm）と 12～10 日前（2回目：葉耳間長 ± 0cm）の 2 回に分けて施用する。
- ・穂肥量は、1 回当たり窒素量で 1 kg/10a、合計 2 kg/10a 施用を基本とするが、地力や生育状況、気象予報から判断して、1 回当たり 1.5 kg/10a を上限に施用量を調節し栄養凋落を防止する。
- ・2 回目の施用量は下表を目安とする。

穂肥 2 回目施用時の葉色 (SPAD 値)	32.0 未満	32.0～ 34.5 未満	34.5～ 37.0 未満	37.0 以上
施用窒素量 (kg/10a)	1.5	1.0	0.5	施用しない

- ・出穂 10 日前以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しないが、異常高温（猛暑）で栄養凋落が予想される場合には、追加の穂肥を検討する。

【3回目穂肥について】

判断の目安	・ 出穂期 3 日前（ただし穂肥 2 回目から 7 日以降）に、第二完全展開葉の SPAD 値が出穂期の基準値 34 未満、かつ登熟期の異常高温や栄養凋落が予想される場合。
施用の時期	・ 出穂期 3 日前
窒素施用量	（化学肥料） → 1 k g /10a 以内 （有機質 100%肥料） → 2 k g /10a 以内

（3）いもち病対策

- ・ 葉いもちの発生は、各地で7月上旬より確認されている。
- ・ 新之助の穂いもちほ場抵抗性は「弱」で、わたぼうし並に弱い。葉いもちの発生がない場合でも、出穂前の適期に粒剤の水面施用、又は粉・液剤で2回（出穂期直前と穂揃い期）の散布を実施し、穂いもちを防除する。
- ・ 共同防除は、新之助の防除適期と合わない場合が多いので、その場合は、新之助に合わせて個別で防除を行う。

（4）斑点米カメムシ対策

- ・ 7月上旬の病虫害予察調査で、斑点米カメムシ類の発生量が多いほ場が散見されている。
- ・ 共同防除によりカメムシ防除が実施されている地区でも、以下の場合には追加防除を実施する。
 - ①共同防除の実施日から「新之助」の出穂期までの日数が10日を超える場合
 - ②栽培ほ場の付近でカメムシ多発生地がある場合
 - ③ほ場でノビエやホタルイの発生が多く、すくい取りの結果、カメムシが確認された場合
- ・ 農道・畦畔の定期的な草刈りを継続するとともに、水田内のノビエやホタルイ等の雑草対策を徹底する。

（5）その他病虫害対策

- ・ 紋枯病は、前年発生ほ場や過繁茂のほ場で多発生しやすいので、薬剤防除を実施する。
- ・ ごま葉枯病の多発生しやすいほ場では薬剤防除を実施し、次年度以降ケイ酸・鉄・マンガン資材等の投入により土づくりに努める。
- ・ 例年、コシヒカリで稲こうじ病の発生が見られる地域（常発地）では薬剤による予防防除を行う。
- ・ ニカメイチュウ、イネツトムシやコブノメイガなども発生しやすいので、発生状況を確認して必要な防除を行う。

※農薬の使用は、ラベル等で使用方法を確認し、適切に使用する。

3 その他

- ・ 栽培記録の記帳・確認、異品種混入のリスク低減など GAP 規範に基づいた管理を行う。
- ・ 収穫作業に向けて、作業同線・手順の確認や水分計のチェックを実施する。

☆ **農作業時は適度な水分と休息をとり、熱中症対策は万全に！**
余裕を持った作業計画で農作業事故の発生を防止しよう！